

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム なかがわ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900108		
法人名	特定非営利活動法人いわて地域支援センター		
事業所名	グループホームなかがわ		
所在地	〒029-0601 岩手県一関市大東町中川字中大畑97番地1		
自己評価作成日	平成24年 3月13日	評価結果市町村受理日	平成 24年 4月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900108&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24年 3月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日の買い物など外出の機会を多く持つことにより地域の一人として生活できるよう、疎外感のないよう支援しています。
 ・「〇〇したい」を応援し、生き生きと生活できる環境づくりを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、地元中川地域の住民の皆さんが集い通いなれた、思い出のいっぱい詰まった小学校を、ほぼそのまま活用した住いであり、山間の静かな高台にある。職員は当初に定めた理念について、より短く・より分かりやすく・より身近なものとして、日々のケアにつなげるべく、皆で知恵を出しあってみ直し作成している。運営については「目標達成計画」や「看取り指針」などについて、推進会議に提案・協議し、透明性を確保しながら、運営に取り組んでいる。小学校という名で地域に点してきた灯りを引継ぎ、高齢者の住むホームとして点し続けている特徴あるホームである。利用者も懐かし訪れる子どもたちや地域の人たちとの交流を図りながら笑顔で暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム なかがわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員全員で話し合い共有するとともに、玄関・ホールに掲示し、常に念頭において支援しています。	全職員で独自の理念を話し合い、「短く、分かりやすく、取り組みやすく」という視点から作成、「運営方針」「介護目標」と合わせ、実践に努めている。共有の機会を多く持つことを今後の課題としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に地域住民の代表者に出席いただき情報交換を行っています。また、日常の買い物を近隣のお店で購入したり、ご近所やお店、かかりつけの医院に広報をお届けしています。	普段は、近隣の方と挨拶や野菜等のお裾分けを通して交流するほか、地域の一員として認識されて、各種会合にも誘われ出席したり、地域の文化祭に出展参加、体験学習の子どもたちや歌や踊りのボランティアともお付き合いを深めてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けての勉強会はできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。生活の様子を報告し、意見・助言・要望等をいただきサービスに活かしています。委員の方には、夏祭りや文化祭の参加にあたり、情報や助言をいただいたり、夜間の救急搬送時の報告を行うなど救急時の理解を得るようにしています。	会議の内容は、ホームや利用者の状況報告に止まらず、外部評価や普段の食事・行事食のメニュー内容、看取りへの対応状況、目標達成計画など多くの課題について、前向きな観点から意見等が出され有意義な会議となっている。今後はホームでの生活の見学など、理解をさらに深めてもらえるような取り組みをしたいとしている。	来年度の委員に、看護師、消防団員、駐在所員の参加を考えているということなので、ぜひ実現することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は、運営推進会議に参加していただき、サービスの取り組み方などへの助言をいただいたり、入居の方の生活の様子を報告しています。	推進会議の際に、意見や情報交換を行なうことが殆どで実地指導や運営上の課題などについては、その都度、電話等でやりとりしている。利用者と役所に立ち寄るなど、円滑な関係に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人及び事業所として「身体拘束排除・虐待防止宣言」を行い、宣言を掲示するとともに、身体拘束排除に関するマニュアルに基づき、見守りに重点をおき身体拘束は行っていません。施錠も日中は、行っていませんが、夜間のみ防犯のため施錠しています。転倒防止のため、人感センサーを使用していますが、センサーで行動が制限されないように職員間で注意しています。	外部研修への参加、法人内研修などを合わせ行い、職員全員の意識高揚、共有、実践に努めている。特に、ホームで見逃しがちな事例(声かけ、ベッド柵利用、車いす介助)について、具体例を挙げて検討協議するほか、テレビ報道で拘束事例があった場合などには、その日のうちに皆で、話し合い共有しあっている。今後とも職員相互に注意し合いながら、拘束をしないケアに努めたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人及び事業所として「身体拘束排除・虐待防止宣言」を行い、宣言を掲示して、虐待のないように職員に周知徹底を図るとともに、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施できていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書をもって説明をし、質問や疑問、要望をお聞きしています。その上で理解・納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に意見・要望を記入できる用紙を設置しています。また、口頭でのご意見・要望などは、迅速に対応するよう心掛けています。 ご家族様の面会時に生活の様子をお伝えするとともに、何か要望やご意見がないか伺っています。出された要望・意見は連絡ノートに記載し全職員に周知しています。	意見・受付カードを含めて、運営に関する意見等は今のところ出されていないが、定期的な広報を活用したりして、どんなことでも出してもらいような雰囲気づくりを心がけている。今後は、イベント開催時や家族の来訪時に家族等が集まって話し合える場を設けたり、利用者同士で集まる機会を設けたりするなど、意見等がより出しやすい環境づくりに努めたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を管理者をとおして代表者に報告・相談し、改善できるものは早急に改善するよう努めています。 また、月1回のカンファレンス時には理事長も出席しており、職員の意見を聴いています。意見は備品の購入などに反映されています。	毎月のカンファレンス・職員会議には、理事長も参加して、職員と自由に意見等を交し合っている。設備備品関係の要望や意見が多く「大きな葉箱」の設置について意見が出され、速やかに対応されている。アフターファイヴの楽しみを含め、出来る出来ない理由などについて、職員にフィードバックされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して代表者へ状況報告をしています。 必要な環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のカンファレンス時に理事長の講話や勉強会をしています。また、個々のケアの実際と力量の応じ、法人外の研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に出席し他施設と交流の機会を作っています。同事業所のグループホームのカンファレンスに出席するなどして勉強会等での交流を図っています。 その際の意見や感想を職員で検討し、サービスに活用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただいたり、要望や不安なことなどをお聞きしています。 家族や利用している事業所から情報を提供していただき、安心して入居できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学と施設のサービス内容を説明しながら要望・質問に答えて、不安が軽減できるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望をお聞きするとともに、ADLの状態を把握し、必要とする支援を知るよう努めています。 医療ニーズの高い入居者には医療連携を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や料理、慣わしなど人生の先輩として知恵やアドバイスをいただいています。 家事や作業などで支えられている部分が多々あります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を行いながら家族状況を考慮し、通院や外出など協力をいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や床屋など今まで行っていたお店に行くことで、知人と交流できる機会を作っています。	馴染みは、床屋さんとパーマ屋さん、買い物先の店員さんが殆どである。時おり、友人知人、親戚の来訪を受けて笑顔で時間を過ごしてる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について職員間で情報を共有し、座席の工夫や余暇活動を通して交流が持てるよう支援しています。 また、職員が間に入り孤立せず友好的関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退院後身体状況から他事業所に入所する際には、ご家族の相談、事業所への連絡・調整を行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を通じて意向・希望を把握できるよう努めています。 職員は本人とのかかわりの中で、意向を把握しており、月1回のカンファレンス時に情報交換し、サービスに反映させています。	普通の暮らし方は、利用者の自由を基本にしている。思いや意向の把握・記録・共有は、ホーム独自の方式で行なっている。普段の気づきについては、今後のケアに大切な情報となることから、連絡ノートに記載するなど、共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族より生活スタイルをお聴きしたり、前事業所より情報を得ることで混乱することなく生活できるように努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、連絡ノートを活用し現状の把握に努めるとともにカンファレンス時に職員が情報を共有できるようにしています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の本人との会話の中や家族との面談の中で意向を話し合ったり、問題点や希望などカンファレンス時に話し合い、ケアに取り組むとともに介護計画を作成しています。	居室担当を定めており、担当が中心となって介護記録等を作成している。その資料を基にしながら、計画作成担当者がモニタリング・評価しながら、カンファレンスで話し合い、家族等の意見を含めて計画の見直し(定例3ヶ月目安)を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録と連絡ノートで日々の様子や気づきなどを職員間で情報を共有し、支援しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、本人、家族の要望をお聞きしサービスの提供や変更を行っています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある商店で買物をしたり、地域の夏祭りに参加したり、また、公民館の文化祭を見に行ったりと地域の一員として生活を送っていると思えるよう支援をしています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望されるかかりつけ医に受診しています。かかりつけ医が変更になる際は、ご本人ご家族が納得の上変更しています。受診の際には、家族の付き添いが原則としていますが、必要時は職員が同行しています。	希望のかかりつけ医となっている。定期受診については、家族同行を基本としながら、随時や緊急時については、職員が臨機応変・柔軟に対応している。家族対応受診の際に必要な情報（バイタルや健康状況など）は持参してもらうなど、円滑な受診が出来るよう特に配慮している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に情報提供し相談しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族、医療機関と事業所間で情報交換に努め、対応しています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を家族に配布するとともに、指針を推進会議にも提示し、職員研修会も開催して指針を共有を図っています。また、推進会議	本年度、重度化・終末期（看取り）について、指針を定め、利用者家族へ配布し、職員にも会議等で指針を説明している。今後家族等には、随時、丁寧に説明を重ねるほか、職員には、対応研修などの機会を設け、不安のないような取り組みをしたいとしている。	重度化や終末期への職員対応について、不安のないよう、随時、研修などの機会を重ねるなどの取り組みを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を受けるとともに、緊急時の救急車の要請や家族連絡の仕方を話し合い職員で情報を共有しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施しています。地域の消防団の方が、火防点検に来てくれます。	定期的訓練（昼間・火災発生）を行なっている。今後とも、地域や消防団へのいざという時の具体的な協力・応援体制の構築について、推進会議の意見を得ながら、着実に進めていきたいとしている。	災害時において、近隣の協力が欠かせないことから、引き続き、協力体制の構築について、取り組みを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に関する規程及び運用管理規程に基づくとともに、人格を尊重し、不快な思いをさせないような声かけを行うよう配慮しています。 大きな声や命令口調にならないように心掛け、入居者の気持ちや誇りを傷つけないよう、また、不安な気持ちにさせないよう支援しています。	利用者への声かけについては、名前は「さん」づけで、排泄等には大声を避け近くで小声で誘導するなど、尊厳やプライバシーに注意を払っている。それぞれの生活場面では、人生の先輩としてだけでなく、役割意識・意欲(司会、調理、編み物、洗濯物たたみ、畑作りなど)の尊重にも心配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に希望が話せたり、自己決定しやすい雰囲気づくりに心掛けています。上手く表現できないケースは、職員が読み取り代弁するようにしていますが、一方的に決めつけるのではなく意思の決定を待つように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋、美容院などなるべく本人の要望をお聞きして支援しています。また、衣類もコーディネートしておしゃれに見えるよう配慮し、クリームなど本人がいつも使っているものを一緒に買いに行ったり、また化粧のボランティアに来てもらいお化粧の支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物を毎日行い、バランスに配慮しながら好みのメニューを取り入れています。配膳や後片付けを手伝っていただいています。 季節の行事には、みんなで料理を作ります。また、制限食などの工夫もしております。	利用者の希望を聞き、一緒に買い物をしてから献立を作っている。食事づくりは、出来るところを出るところまで、役割意識を尊重しながら、利用者それぞれに参加、隣や向かい同志、職員などと語り合いながらのんびりと楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量、食事形態の工夫をしています。食事量、水分量の摂取を記録しており、十分な食事ができないときは補食を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事ケアに関するマニュアルに基づき、食後のうがい、歯磨き、義歯の手入れの声かけ、介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声がけ誘導するとともに、表情やしぐさから排泄のサインを読み取り誘導しています。	「失敗させない」「オムツをさせない」ことを、基本目標にしながら、排泄チェックをしっかりと記録・共有し、適時適切な誘導声がけをしながら、職員全員で意識あって対応している。日中は、利用者全員がトイレでの快適排泄が可能となり、笑顔で明るく暮らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便の把握し、訪問看護師に相談しながら便秘薬の投与をしています。また、乳製品をメニューに取り入れたり、軽い運動などで自然排便ができるよう予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助に関するマニュアルに基づくとともに、入浴の曜日は決まっていますが、その時々で柔軟に対応し、一人ひとりのタイミングで入浴できるように、また、入浴時に声がけし、入浴したくない日は翌日に入浴していただいたり柔軟に対応し、急がせることのないよう支援しています。	衛生上の観点も含めて、一日おきの入浴としている。友達との入浴、職員とのゆったりとした会話、入浴剤や四季折々の菖蒲湯、柚子湯などで楽しんでいる。夜の入浴希望は今のところないが、あった場合には、足浴を含めて柔軟に対応したいとしている。入浴を好まない利用者にはタイミングを見て誘導し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳、ソファ、ベッドなど休みたいところで、休めるようにしています。日中はレクリエーションや体操を行い夜間の安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴りいつでも職員が見られるようにしています。薬が変更になった際は連絡ノートに記入し全職員が把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、タオルたたみ、洗濯物干しなどその人ごとの役割を持って生活できるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や地域のイベント(文化祭)に出かけています。家族の協力のもと毎日外出されている方もいますし、入居者の希望で海に出かけたり、山に出かけたりしました。また、外食で好きな物を食べるなどなるべく外出の機会を増やすよう支援しています。	全員でのドライブ(温泉・外食、紅葉狩りなど)のほか、少人数での外食(好きな食べ物)のための外出など工夫して楽しんでいる。今後とも、冬場の外出を含め、天気や利用者の思いと相談しながら、気分転換、適度な運動疲労感を得るための外出を考えていきたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていませんが、本人の希望する買い物はご家族に話し、立替えの形で利用していただいています。また、財布がないと不安になる方は、本人の了解のもと預かっており希望時に渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話できるようにしています。家族に話したいことがある時は面会時または職員を通して伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度に配慮しながら毎日の清掃を行い清潔を保っています。ソファ、畳、テーブル、コタツを置いて好きなところでくつろげるようにしています。季節の飾り付けをしたり、手芸品を飾り、落ち付ける空間づくりに努めています。 ソファ・畳・テーブルを置いて好きなところでくつろげるようにしています。 観葉植物を置いたり、季節の飾り付けをしたり、居室に好きな絵を飾り、落ち着ける空間づくりに努めています。	旧学校を利用したホームの大きな窓からは、部屋に余るほどの日差しが差し込み、明るく居心地が良い広い共用空間となっている。畳の移動スペースにコタツを設置したり、ソファやテーブルなどがゆったり置かれ、大きなかご盛の花が、華やかさを添えている。壁には、ドライブ、化粧ボランティア等の写真、フロアには利用者や地域の方の手づくりの作品なども置かれ、来訪者の目や心を楽しませてくれている。今後は、広いスペースの中、落ち着いた居場所づくりも考えていきたいとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・畳・テーブルの配置があり、その時々で好きな居場所を選べるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れた物を自由に持ち込んでいただいています。 家族の写真、アルバム、BOXや布団などを持って来られており、ご本人と相談しながら居室の配置をしています。	使い慣れた見慣れた、時計やカレンダー、家族の写真、着替えなど衣類が持ち込みの殆どであり、入り口には、思い思いのノレンが飾られ、我が家が部屋を演出している。利用者同士部屋で語り合うなど、ゆったりと過ごす様子がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、本人、家族の了解のもと表札をかけて自分の部屋がわかるようにしています。また、手すりやトイレの表示で安心して混乱のよう支援しています。		